

乳幼児(0歳～6歳)用

神経系統の障害に関する医学的意見

患者氏名	男・女	才
------	-----	---

記入年月日 年 月 日
 病院名
 診療科
 医師名 印

1. 画像(脳MRI、脳CTなど)および脳波 これらの医学的検査において、検査名・検査日と特記すべき所見をお示しください。

2. 神経心理学的検査 遠城寺式、津守・稲毛式発達検査、発達検査、WPPSI、KABCなどの検査を行っていましたら、検査日と所見をお示しください。(併せて検査報告書のコピーを添付してください。)

検査日(年 月 日)

検査名と所見:

3. てんかん発作の有無

(1) 無し

(2) 有り:

治療のために使用している抗てんかん薬の種類と量:

上記の治療を行っていても発作がある場合は、その頻度: 年____回程度、月____回程度、日____回程度

多く見られる発作の型:

0歳～3歳未満の場合

4. 運動発達状況 それぞれの姿勢について、該当する項目に をつけてください。

仰臥位:	1.新生児反射 口唇おいかけ・吸嚙 把握・モロー・ バビンスキー	2.顔の上の布とり				
引き起し:		1.首がすわる	2.頭が遅れない	3.起き上がろうとする		
座位:	1.支えて座る	2.支えなしに座る (手をついて)	3.支えなしに座る (手をつかないで)	4.上体を横向きに座る		
垂直だき:	1.下肢のかいり屈曲	2.下肢の膝上げ	3.下肢のゆるい伸展			
水平だき:	1.頭垂れる	2.頭上げる	3.頭上げる (胸椎の伸展)	4.頭上げる (腰椎の伸展)	5.頭上げる (四肢軽い屈曲～ 伸展)	6.パラシュート反応
腹臥位:	1.45度頭を上げる	2.90度頭を上げる	3.胸を上げる	4.寝返り	5.胸を上げる (片手で支える)	6.四つばい
立位:	1.つかまり立ち	2.つたい歩き	3.ホッピング反応	4.上手に歩く	5.うしろ歩き	

3歳～就学前の場合

5. 運動機能 該当する数字に をつけてください。また筋力もMMT(5～0)で記入してください。

右上肢	1.正常	2.手指巧緻性低下	3.補助手	4.廃用
筋力	肩屈曲:	肩外転:	肘屈曲:	肘伸展:
左上肢	1.正常	2.手指巧緻性低下	3.補助手	4.廃用
筋力	肩屈曲:	肩外転:	肘屈曲:	肘伸展:
右下肢	1.正常	2.耐久力低下/つまずきやすい	3.片足立ち困難/下肢装具使用	4.廃用
筋力	股屈曲:	股伸展:	膝屈曲:	膝伸展:
左下肢	1.正常	2.耐久力低下/つまずきやすい	3.片足立ち困難/下肢装具使用	4.廃用
筋力	股屈曲:	股伸展:	膝屈曲:	膝伸展:
体幹	1.正常	2.軽度バランス障害	3.バランス悪く長く立ってられない	4.座ってられない

6. 認知および行動障害 該当する数字に をつけてください。

	1	2	3
	なし	中間	重度 / 頻回
	障害なし	1と3の中間の状態	深刻な生活困難さを起こす原因となっている。
1 家族の顔を覚えていない	1	2	3
2 昨日のことを思い出せない	1	2	3
3 新しいことを覚えられない	1	2	3
4 疲れやすく、すぐ居眠りする	1	2	3
5 自発性低下、声かけが必要	1	2	3
6 気が散りやすく、飽きっぽい	1	2	3
7 すべて自分中心でないと気に入らない	1	2	3
8 同年代の友達と会話ができない	1	2	3
9 話がまわりくどく、考えを相手に伝えられない	1	2	3
10 粘着性、しつこい、こだわる	1	2	3
11 感情の変動がはげしく、気分が変わりやすい	1	2	3
12 感情や言動をコントロールできない	1	2	3
13 ちょっとしたことですぐ怒る	1	2	3
14 大きな音や人混みを嫌う	1	2	3
15 場所をわきまえず大声を出したり、泣き叫んだりする	1	2	3
16 日常生活や遊びでのルールを覚えられない	1	2	3

上記で認められた症状が、社会生活・日常生活に与える影響について具体的にご教示ください。